

音楽の都 ウィーンフィルの団友による夢の共演

ウィーン・アンサンブル

VIMCA 静岡公演



フルート

マティアス・
シュルツ

ウィーン国立歌劇場管弦楽団
ウィーン・フィル奏者(団友)

オーボエ

ユリア・
ツールス

ウィーン国立歌劇場管弦楽団
ウィーン・フィル奏者(団友)

ファゴット

ヨハネス・
カフカ

ウィーン国立歌劇場管弦楽団
ウィーン・フィル奏者(団友)

ホルン

ヴォルフガング・
ルュッキング

ウィーン国立歌劇場管弦楽団
ウィーン・フィル奏者(団友)

クラリネット

ノルベルト・
トイブル

ウィーン国立歌劇場管弦楽団
ウィーン・フィル奏者(元首席)

2026年 2月8日(日)

会 場 静岡音楽館AOI 8階ホール

公 演 開演 18:30 (開場 18:00) 予定

チケット 全席自由1枚4,000円 未就学児入場不可



静岡市長
難波 喬司

世界が称賛するウィーン・アンサンブル
VIMCAによる静岡公演が音楽館AOI
で実現します。ぜひ、お誘い合わせのうえ
ご鑑賞ください。

また、演奏会当日の昼間には静岡市内
中学の吹奏楽部等と出演者との演奏交流
を予定しています。子ども達をはじめ皆様と
ともに「音楽の都ウィーンの響き」を体感
できることを大変楽しみにしています。

主催：ウィーン・アンサンブル静岡公演実行委員会

(アイワグループ・大和ハウス工業株式会社・アバマンショップ・株式会社ピーエーシー)

共催：静岡市

後援：静岡市教育委員会・オーストリア大使館・オーストリア文化フォーラム東京

協賛：アイワグループ 大和ハウス工業株式会社 アバマンショップ 株式会社ピーエーシー

協力：(一社) ウィーン国際音楽文化協会

ON STAGE
SHIZUOKA

[出演者紹介]



※Vienna International Music Culture Associationの略になります。



■ ウィーン・アンサンブルVIMCA / ウィーン木管五重奏団VIMCA

ウィーンを代表するウィーン国立オペラ座(ウィーン国立歌劇場管弦楽団)のオーケストラトップメンバーによるアンサンブル。古くからの音楽仲間達による特別編成のアンサンブルで、モーツアルトからヨハン・シュトラウスまで本場ウィーンの一流の演奏、また現代曲まで幅広く披露している。その幅広いレパートリーと、息の合った演奏とパフォーマンスは世界中の聴衆を虜にしている。

ウィーン国立オペラ座のメンバーが自主運営しているのがウィーン・フィルであり、普段はオペラ座で演奏をし、自主公演コンサートとして演奏する時にはウィーン・フィルとして演奏することが多く、そのメンバーや団友によるアンサンブルである。



[フルート] マティアス・シュルツ ウィーン国立歌劇場管弦楽団 / ウィーン・フィル(団友)

ウィーン国立音楽大学にて父親でありウィーン・フィル首席フルート奏者故ヴォルフガング・シュルツ教授の元で学ぶ。数多くのコンクールで優勝。ザルツブルグ音楽祭、ザルツブルグ・モーツアルト週間等に出演し、ソリストとしてはウィーン・トーンキュンストラー管弦楽団、ザルツブルグ・モーツアルト管弦楽団、リンツ・ブルックナー管弦楽団、ウィーン室内管弦楽団、新日本フィルと共に。室内楽では数多くのCDがリリースされている。これからウィーンのオーケストラを担う若いソリスト達により結成されたバオレ・ウィーン木管五重奏団のリーダー。ウィーン・ヨハンシュトラウス管弦楽団首席奏者、オーストリアフルート協会会長も務めている。



[クラリネット] ノルベルト・トイブル ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団元首席奏者

14歳よりウィーン国立音楽大学でウィーン・フィル首席奏者のペーター・シュミードルにクラリネットを学ぶ。学生時代よりウィーン国立歌劇場管弦楽団とウィーン・フィルの代役として定期的に演奏し、卒業後、ウィーン国立歌劇場管弦楽団にクラリネット奏者として入団。ウィーン・フィルコンサートマスターにスカウトされ、ウィーン・フィル首席奏者のアルフレッド・プリンツの後任としてウィーン室内アンサンブルに参加。モーツアルト、ブラームス、ウェーバーのクラリネット五重奏曲など数多くの録音を残した。ウィーン・フィルのソロ・クラリネット奏者に転向し、カール・ライスターの後任としてウィーン・ベルリン・アンサンブルに参加した。PhiliTangoアンサンブルでサロン音楽の幅広いレパートリーも演奏。ウィーン・コンツェルトハウス八重奏団の創立メンバー。



[オーボエ] ユリア・ツールス ウィーン国立歌劇場管弦楽団 / ウィーン・フィル(団友)

ウィーンに生まれウィーン国立音楽大学にてクラウス・リーンバッハ教授に師事。その後、ウィーン・フィルのハラルド・ヘルス教授に師事。フランス・リヨン国立高等音楽院にてジャン＝ルイ・カベツアリ、ジャローム・ギシャール教授に師事。在学中に東京財団より奨学金を得る。ウィーン・フィル、ウィーン交響楽団等主要オーケストラと共に。室内楽ではヴェーベルン木管五重奏団のリーダーとして、ニューヨーク、ブダペスト、テヘランやウィーン楽友協会、東京のサントリーホール等でも演奏。フランス・マルセイユでのアンリ・トマジ木管五重奏国際コンクールでは3位。2014年からウィーン国立歌劇場管弦楽団オーボエ奏者。



[ファゴット] ヨハネス・カフカ ウィーン国立歌劇場管弦楽団 / ウィーン・フィル(団友)

リンツ・アントンブルックナー市立音楽大学で学んだ後、2008年よりウィーン国立音楽大学にてシュテファン・トゥルノフスキイに師事。リンツの学生時代には指揮法、合唱指揮法も学ぶ。国・州主催コンクール“ブリマ・ラ・ムジカ”で数多くの部門で入賞。

ソリストとしてはリンツ・ブルックナー管弦楽団等と共に。ザルツブルグ音楽祭等、数々の音楽祭にも出演。ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団と共に定期的に共演している。若い音楽家で結成されたウィーン・プラス・コネクションのリーダーも務めている。2010年からウィーン国立歌劇場管弦楽団ファゴット奏者。



[ホルン] ヴォルフガング・ルュッキング ウィーン国立歌劇場管弦楽団 / ウィーン・フィル(団友)

1996年にメードリングで生まれ、音楽一家に育つ。3歳で初めてヴァイオリンを、その後すぐにピアノを学ぶ。9歳でホルンに出会い、ホルンを本格的に学び始める。

2015年、ウィーン国立音楽大学でトーマス・ユプストルに師事し、器楽の勉強を始め、2018年、ウィーン国立歌劇場管弦楽団のオーディションに合格。ウィーン国立歌劇場での活動に加え、ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団、ウィーン交響楽団、ニーダーオーストリア・トーンキュンストラー管弦楽団などの有名オーケストラと共に定期的に共演している。室内楽での活動も定期的に行っており、彼の芸術活動において重要な役割を果たしており、将来を嘱望されている。



日本の音楽大学声楽科卒業後、ウィーン国立音楽大学声楽科を特待生として修了。その後、イタリア・ミラノにて研鑽し、ウィーン音楽協会の派遣でスペイン・バルセロナへ。州立音楽院での指導の他、ヨーロッパ各地で音楽活動。故A.クラウスにも師事し、P.ドミンゴ、故M.カバリエ等からもアドバイスを受ける。イタリア・シチリア ベッリーニ声楽コンペティションにてテノール特別賞。ウィーン市文化賞、ウィーン市ファヴォリーテン文化名誉金賞受賞。皇后陛下より皇居へ招待を受ける。2008年12月に15年間にわたるヨーロッパ生活にピリオドを打ち帰国。帰国後もスペイン・バルセロナ声楽セミナー教授、ウィーン、アジア各国に定期的に招待され指導、国際コンクール審査員、読売等の数多くの国際音楽祭音楽監督を務め、近年は海外の歌劇場、国際音楽事務所の声楽アドバイザーの他、ウィーン少年合唱団、ウィーン国立歌劇場、及び、ウィーン・フィルメンバー等とのコンサートを行っている。西武文理大学特命教授。山梨県立大学客員教授。

(一社)ウィーン国際音楽文化協会理事長。ウィーン国際文化協会第一副会長(ウィーン)。やまなし大使。2022年オーストリア共和国大統領より同国との音楽活動を評価されオーストリア国家勲章有功栄誉金賞を叙勲。

音楽ナビゲーター / 公演監督
岡部 武彦